



2016年4月の熊本地震により被災された皆さまには、心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧と皆さまのご健康を心からお祈り申し上げます。



和白干潟観察会のようす

夏の和白干潟の自然さがし (雁ノ巣海岸)

和白干潟には全国の干潟では2か所だけといわれる貴重な自然海岸が残っています。砂浜、アシ原、クロマツ林や雑木林、淡水湿地など干潟本来の自然の景観が残っています。この和白干潟の自然のすばらしさをさがして歩くという企画の2年目です。今回は海の広場対岸の雁ノ巣海岸の砂洲やアシ原を歩きます。4月に春の雁ノ巣海岸を歩きましたが、2回目は7月に実施します。季節が春から夏に移り、雁ノ巣海岸の自然はどのように変わったでしょうか？ 和白干潟を守る会会員といっしょに市民の皆さんも歩きませんか？ この企画は年4回、四季に1回ずついたします。ごいっしょに和白干潟の宝物をさがしてみませんか？

とき：7月19日(火) 14:00～17:00 受付：13:45～
大潮 干潮15:36 満潮8:55

集合：JR雁ノ巣駅前 (福岡市東区雁ノ巣)

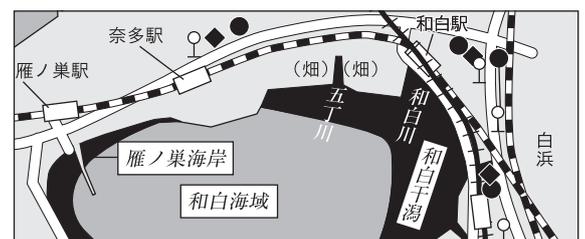
参加費：無料 雨天中止、小雨決行

持ち物：筆記具、飲み物、(あれば) 双眼鏡、ルーペ

服装：(暑い季節ですが、安全面から)
長そで、長ズボン、帽子、長靴

主催：和白干潟を守る会

問い合わせ：TEL：090-1346-0460 (田辺)



雁ノ巣海岸は駅から徒歩5分

春の和白干潟の自然さがし（雁ノ巣海岸）報告（高田 将文）



4月26日（火）14:00～17:00 今年度は干潟の自然さがしの第2弾として、雁ノ巣海岸の四季を見て回り記録することになりました。海岸に入った場所にはハマダイコンの花が咲き乱れていました。沿岸のアシ原を少し歩いて、元気に伸び出したアシの根元には巣穴がたくさんあり、クロベンケイガニやアシハラガニに出会いました。しかし歩き続ける道が無く、アシ原入口まで引き返して海岸を歩きました。潮の引いた砂浜を歩くとコメツキガニの巣穴と砂団子、マガキがついたロープや石が沢山ありました。人工島を造り始めてから潮の流れの変化に伴い、砂浜がえぐられたり膨らんだりして以前の海岸線が変わっていました。覆砂をされた場所もあるそう

ですが、砂がたまった後に大きくえぐられた場所にたまった大量のオゴノリ、根元まで洗われて枯れたのではないかと思われるセンダンの木、そして雁ノ巣鼻の先端は細くなっていました。しかしここにミヤコドリが8羽いましたので、近寄るのを遠慮しました。陸側にはハマニンニクが幅広く広がって育ち、穂が立ち並んでいました。例年心待ちにするネコノシタもハマゴウも芽吹き始めたばかりで、あやうく踏むところでした。オカヒジキもまだ小さく、ハマゼリの香を感じながら歩きましたが、ゴミの多さには驚きました。カワラヨモギなど大きな群落を見ましたが、一株だけの黄色の花は後で調べて下さった方によるとナルトサワギクではないかということでした。（1976年鳴門で発見。ネットで調べたら「特定外来生物」に指定されており、毒性が強いそうです。人工島内の護岸内側に大群落が多く見られました。）（田中）



クリーン作戦報告



4月23日（土）「干潟・湿地を守る日2016」

「春のビーチクリーンアップ2016」参加

20名参加、回収ゴミ：112袋。今回のクリーン作戦は、始める前から雨が降っており、守る会のテントを張って準備をしました。まず初めに参加者の前で、「干潟・湿地を守る日宣言」を読みあげて、皆さんの賛同を得てから清掃の範囲や、方法などの説明をして始めました。大潮の満潮後で、数日前にも雨が降っており人工ゴミや自然ゴミが草の上まで沢山打ち寄せられていました。一輪車、リヤカー、ソリ等で運び、多くのゴミを集めることが出来ました。今回も数人の若者が参加して下さり、人数の割には効率よく運べて、見事にきれいになりました。ゴミは置き場いっぱいになりました。城東高校の先生も団体会員として一人で参加して下さいました。生徒達は雨のために中止をされたようです。初めて参加された学生さんも次回参加したいとのことでした。（田辺）



5月15日（日）ラブアース・クリーンアップ2016 参加



115名参加、回収ゴミ：134袋。ラブアース・クリーンアップは福岡市から始まり、今では九州・山口県、遠くは石川県や北海道、更には韓国釜山広域市にまで広がっており、今年で25年目を迎えます。地球環境への関心はますます高まり、ラブアース・クリーンアップは足元の活動から地球環境保全の大切さを訴える取り組みとして市民に定着し、活動の輪が広がっています。当日は雨の心配のない気持ちいい朝でした。今年も福工大附属城東高校が先生・生徒を含めて96名参加していただき、大変助かりました。9時から開会式、山本さんが開会の挨拶、そして私が実行委員会名誉会長の市長からのメッセージを代読しました。高校生や九産大生たちは、日ごろクリーン作戦に参加している生徒が多く、クリーン作戦とはゴミの分類が異なることから、最初は戸惑っていましたが慣れてくると若者の力は大きく、1時間ほどで干潟はきれいになりました。（高田）

観察会報告（2016年3月～6月）（今村 恵美子）

3月22日（火）南区鶴田校区生活環境改善推進協議会 19名

参加者の皆さんは初めての干潟体験で、山本さんの干潟の紹介・鳥・生き物・干潟の話を中心に熱心に聴いていました。バードウォッチング後にアシ原の植物やカニの穴を観察して、砂洲に出て干潟の生き物観察をしました。昼食をはさんで、満潮と干潮の干潟を見ることができました。アシ原の新芽などを見て楽しみながら、ゴミ拾いをしました。参加者からは「この干潟は鳥にも人にも憩いの場ですね」「守る会の方々のたゆまぬ努力で自然が守られているのに感心しました」という感想がありました。（河上）



5月13日（金）玄海風の子保育園かぼちゃ組（年長児）27名と先生4名



5月の爽やかな風が吹く中、子どもたちは目を輝かせて興味深そうに干潟の話聞いていました。ガイドがカニをつかまえて見せましたが、子どもたちも自分でカニを捕まえようと一生懸命です。コメツキガニをあちこちら掘ってやっと見つけると「見つけたー」と嬉しそうでした。沖の方でアサリを掘りましたが、今回は潮が余り引いておらず、アサリが小さくて大きいものは少なかったです。ウミナもたくさん見つけました。子どもたちは「大きいカニがよかった」「ワカメ（オゴノリのこと）を見つけた」など、感想を述べていました。子どもたちは進んでゴミを見つけてはビニール袋に入れ、海の広場に戻りました。暖かかったので濡れても安心で、鳥やカニたちをゆっくり見ることが出来ました。（有江）

5月19日（木）ちどり保育園くじら組（年長児）40名と先生4名

初夏の太陽をあびながら広場でお弁当を済まして、観察会を始めました。ガイドの有江さんは明確な言葉で園児たちに問いかけながら干潟の説明をしました。先生たちが園児と一緒に楽しむ姿はほんとにいいですね。鳥の観察後、干潟に出ました。浄化実験の為にアサリとウミナを一生懸命採って集めました。途中でチュウシャクシギが近くにきたのを望遠鏡で見せました。みんなのびのびと楽しい観察会でした。（河上）



5月31日（火）香椎保育所さくら組（年長児）40名と先生7名、保護者6名



子どもたちは干潟の話が始まると、海の生きものの手袋人形に釘付けになって話を聞いていました。バードウォッチングでは望遠鏡をのぞいて、鳥が見えると「あっ、いたいた」と歓声をあげていました。アシ原ではアシハラガニの動きが速いので捕まえるのに苦労していましたが、先生たちに「がんばれ」と励まされて捕まえ、「上手ね」とほめられていました。干潟に出て、ウミナを一生懸命拾いました。コメツキガニの巣穴がいっぱいある所ではひとしきり穴を掘ってコメツキガニを探しました。水たまりに入ってバシャバシャと水しぶきを上げ、長靴の中に水がはいても平気で水の感触を楽しんでいました。タマシキゴカイの卵塊を見つけて「ゼリーみたい」と言っていました。みんなで集まって、干潟で見つけた生き物を子どもたちに見せると、手で触って感触を確かめていました。「カニはなぜハサミを持っているのですか？」「クラゲが透明なのはなぜですか？」などの質問が出ました。2人1組でビニール袋を持ち、ごみを集めながら海の広場に戻りました（有江）

第4回「唐原川お掃除し隊」（山・川・海の流域会議）報告

梅雨の晴れ間、6月11日（土）10時に九州産業大学学友会棟横に集合。和白干潟を守る会など6団体で構成する「山・川・海の流域会議」主催。川の上流から中流域までが今回の清掃区域で、3箇所に分担を決め、参加者は45名でした。主戦力は九州産業大学の唐原川野生動植物研究会と唐原川ラボラトリーの学生と先生の20人でした。福岡女子大学生2名も胴長をはいて川底まで入りました。昨年実現した「唐原川保全区」は、植生が濃くハグロトンボやチョウがたくさん飛び交っていました。

これらの植物の繁みにも空き缶やペットボトルが捨てられ、かき分けながらゴミを回収しました。回収したゴミは全部で可燃ごみ22袋、不燃ごみ15袋、粗大ゴミは自転車やタイヤ、フェンスなどです。参加者からは「すっきりときれいになって気持ちよかった」「付近の住民がもっと参加してほしい」「燃えるゴミも、燃えないゴミもたくさんあった」「胴長をはいていても深いところもあった」などの感想がありました。（今村）



ハマボウ (アオイ科フヨウ属)

海岸の砂泥地に生える落葉低木。花期は7~8月。直径5cmほどの鮮やかな黄色い花をつけます。花の中心部は暗赤色です。朝咲いて夕方に閉じる1日花です。和白干潟周辺では20年ほど前に牧ノ鼻沿岸で1本のハマボウの木を見つけ、皆で大事に見守ってきました。その子ども木が広がり、牧ノ鼻沿岸では大群落地になりつつあります。種が波で運ばれて、唐原海岸や海の広場付近にも広がってきました。現在は海の広場付近に3本のハマボウの木があり、毎年花をつけています。真夏に美しい黄色い花をたくさん見ると元気が出ますね。



ハマボウ

ハマトビムシ類 (ハマトビムシ科) 体長約1cm.



ハマトビムシの仲間

和白干潟では夏期に多く見られます。砂浜に打ち上げられた海草や砂の中に住む甲殻類です。人が近づくと砂に潜ったり大きく跳ねながら逃げます。小さくすばしこいのでなかなかつかまりませんし、姿もはっきりとは見られません。今回「日本のハマトビムシ類」という冊子を見て、ハマトビムシにも多くの種類があるのを知りました。この冊子を持って行き、ハマトビムシにも注目してみたいと思いました。餌は海岸に打ち上げられた海草や動物の死体で、そこに繁殖している微生物などを食べているそうです。沿岸ではほかにもフナムシ



フナムシの仲間

の仲間が住んでいますが、フナムシ (フナムシ科) は1年中見られます。フナムシは岩礁、アシ原などに群れで住んでおり、海岸に打ち上げられた動植物を食べているそうです。ハマトビムシとともに海岸の掃除屋さんですね。



コサギ

コサギ (サギ科) 全長61cm.

留鳥として1年中和白干潟や周辺のアシ原で見られますが、ねぐらは少し離れた林に他のサギ類に混じってコロニーを作っています。河川や水田などでも見られます。和白干潟ではダイサギ、アオサギ、コサギの3種が普通に見られるサギ類です。その中では羽数が少ない種です。白い羽が海水に映えて美しいです。特に夏羽では後頭から2本の長い冠羽が伸びて、背に先がカールした飾り羽が出ます。美しい姿に似合わないゴアアアという声で鳴くそうです。他のサギよりも動きが活発で、水中で足を震わせて魚をくちばしで取って食べています。

★夏の和白干潟のしぜん情報★

アシ原：アシは丈高く伸びて鮮やかな緑色です。アシ原の中にハマナデシコやハマゴウの花が咲きます。牧の鼻の海岸にハマボウの黄色い花がたくさん咲きます。唐原川左岸のアシ原ではシバナが黄緑色の穂を付けます。

干潟：ウミニナの仲間が干潟上を埋め尽くすほどに増えています。浅瀬ではマメコブシガニ。干潟にはたくさんのコメツキガニの巣穴と砂団子。和白川河口や奈多のクリークではハクセンシオマネキ。アシ原付近にはアシハラガニ。夏の和白干潟は生きものたちでいっぱいです。

水鳥：夏鳥として渡ってきたコチドリが繁殖しています。オオヨシキリはアシ原で繁殖しています。近年はコアシサシの姿が少なくなりました。繁殖地の減少でしょうか？サギ類は夏期が多いようです。カルガモやイソシギも沿岸で繁殖しています。



マメコブシガニ

「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の請願署名をお願いします！

今年1月から月2回の街頭署名活動を頑張っています。皆さまのご協力をお願いします。署名は2016年12月まで取り組みます。用紙は守る会ホームページ <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/> からダウンロードできます。ぜひ署名を広げていただきますようお願いいたします。



香椎ふれあいサロンで和白干潟の講演

5月24日(火)午後1時から香椎公民館の「香椎第一駅前ふれあいサロン」で、山本代表が「和白干潟をみんなの手で守りましょう！」と題した講演を行いました。44名が参加。歌ありマジックありの、楽しい講演でした。最初に「うみ」をみんなで歌いました。山本代表が和白干潟は貴重な存在であることを、野鳥、植物、底生生物の映像やパネルを使って説明しました。また守る会のこれまで約30年間の歩みを述べました。次に得意のマジックで、干潟の生きものたちを紹介し、「ミヤコドリ」の歌をみんなで歌いました。最後にラムサール条約登録についてわかりやすく話し、署名をお願いしました。香椎の街頭ですでに署名した人もありました。参加者から「アオサは食べられるか？」などの質問が出されました。また守る会会員が6月11日の唐原



川清掃のチラシを配って、参加を呼びかけました。今日のお話を聞いて、和白干潟を訪れたいという人がありました。和白干潟をもっと沢山のの人に知ってもらいたいですね。(河上)

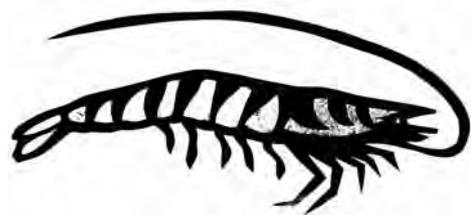
「(株)環衛サービス」第8回福岡市環境行動賞・最優秀賞に

(株)環衛サービスの皆さんは、和白干潟を守る会の団体会員として、毎月の干潟のクリーン作戦、水質調査、和白干潟まつりなどに積極的に参加され、今や欠かせない存在です。福岡市環境行動賞は環境美化やごみ減量リサイクルなどに先進的・継続的な取り組みを行い貢献した個人・団体・学校・事業者を表彰するもので、同社は、事務所内の環境活動のほか、奈多海岸の植林ボランティアにも参加されています。ちなみに第1回の同賞受賞は「和白干潟を守る会」でした。守る会の思いが広がり、協力者が増えていることを実感します。



熊本地震で干潟のアサリ一部壊滅

熊本地震の土砂崩れによって、粘度の高い泥が阿蘇から白川に流れ込み、有明海に達して堆積、一部の干潟で大量にアサリが窒息死しているとのこと。熊本市西区小島漁協では、5月下旬でも海水が茶色のまま。沖合い3~4キロのアサリの保護区周辺でも、大雨で海底に泥が堆積する恐れがあるといえます。また、白川上流の濁りが鮎の餌であるコケの繁殖を妨げ、成育不良の恐れがあるとのこと。梅雨を前に更なる土砂の流入で、漁業への影響が懸念されています。



和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます!大切にに使わせていただきます!
★4/7「日本ユネスコ協会連盟」様より「2015年度レクサス特別賞」のご寄付をいただきました。

気が付いたらあなたも電話してください!

- ▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局・維持課)
- ▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153 (港湾空港局・環境対策課)



＊ ＊ お 願 い ＊ ＊

- 干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう! とても危険です。
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう! (ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう!



弱った野鳥を見つけた時 → 092-513-5611 (福岡県筑紫保健福祉環境事務所・地域環境課)
092-643-3367 (福岡県環境部・自然環境課・野生生物係)

2016年3月

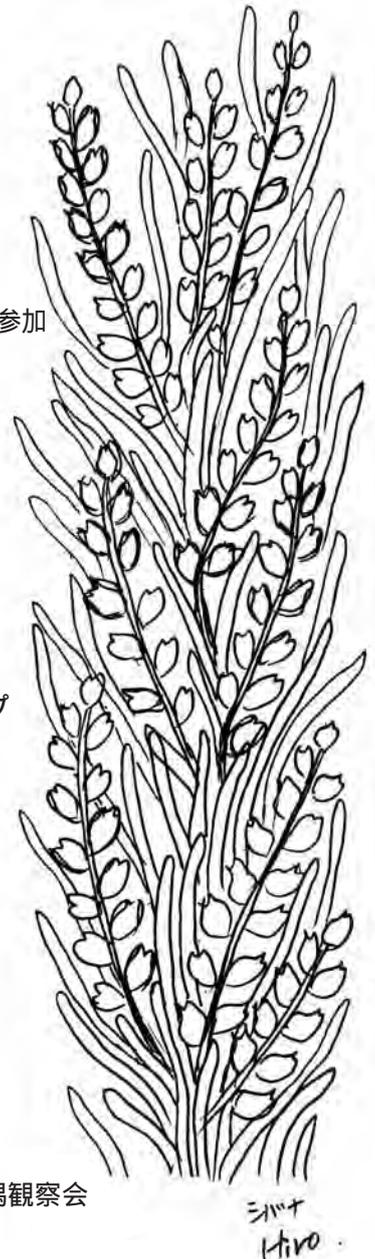
- 3/1 (火) 和白干潟通信118号編集会議
- 3/8 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(西鉄香椎駅周辺)
- 3/10 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 3/12 (土) 山・川・海の流域会議の総会参加
- 3/13 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 3/15 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(福工大前駅周辺)
- 3/22 (火) 南区鶴田校区生活環境改善推進協議会の和白干潟観察会
- 3/26 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 3/27 (日) 和白干潟通信118号編集会議

2016年4月

- 4/1 (金) 「福岡市NPO・ボランティア交流センター あすみん」の新館開館式に参加
- 4/3 (日) 2016年春期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 4/5 (火) 観察会グループ会議
2016年春期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 4/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 4/11 (月) イオン黄色いレシートキャンペーン&贈呈式
- 4/12 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(西鉄香椎駅周辺)
和白干潟通信118号発送会と観察会案内状発送会
- 4/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 4/19 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(千早駅周辺)
- 4/21 (木) 2016年春期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
- 4/23 (土) ラブアースクリーンアップ準備会議参加
定例会議・干潟湿地を守る日2016と春のビーチクリーンアップ
2016参加の和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 4/26 (火) 春の自然さがし(雁ノ巣海岸)

2016年5月

- 5/1 (日) 2016年春期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 5/3 (火) 「和白干潟の四季の自然さがし リーフレット」作成会議
- 5/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 5/11 (水) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 5/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 5/13 (金) 玄海風の子保育園の和白干潟観察会
和白干潟のラムサール街頭署名活動(福工大前駅周辺)
- 5/14 (土) 山・川・海の流域会議定例会議参加
2016年春期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 5/15 (日) ラブアースクリーンアップ参加の和白干潟クリーン作戦
- 5/17 (火) 2016年春期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
和白干潟のラムサール街頭署名活動(千早駅周辺)
- 5/19 (木) ちどり保育園の和白干潟観察会/和白干潟保全のつどいの和白干潟観察会
- 5/24 (火) 香椎ふれあいサロンで和白干潟の講演(香椎公民館)
- 5/28 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 5/31 (火) 香椎保育所の和白干潟観察会



干潟のつぶやき「チゴガニが消えた？」

チゴガニは甲羅の幅が1cmのコメツキガニ科のカニで、砂泥干潟に生息しています。白いハサミと胸の明るい青色が特徴的なカニです。近年の和白干潟では、唐原川下流の橋脚付近の泥地に居ることがわかりましたが、数年前から生息数が減り始めています。今年も居るのかと見に行きますが、居るのはアシハラガニやヤマトオサガニばかりでした。チゴガニの寿命は1~2年で、卵から孵化した幼生はプランクトンとして海中で約2週間浮遊生活をし、成長してから生息に適した砂泥地に定着するそうです。近年の干潟の底質変化で生息領域が狭まるチゴガニです。良く晴れた干潮時には同じ場所にチゴガニがいたそうですが、和白干潟周辺で減ってきているのは確かです。また増えてほしいですね。(山之内)



チゴガニ



第18期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 「アシ原付近にはどんな鳥が来るのだろう」

2015年12月20日(日)ガイド講習会を実施。講師は自然観察指導員もされている日本野鳥の会会員 田村耕作さんの、室内とフィールドとさらに戻って室内でと3部に分かれての講習でした。まず室内で、安全対策として下見をすることについて(危ないところはないか)危険個所を紙片に書き出して並べました。和白干潟に行き、干潟と後背地とのわずかな高低差は植物の変化となって現れるからその断面図を書いて、そこに来ている鳥たちはどんな鳥か、何をしているかなどを見るように言われ、紙と鉛筆持参で歩き出しました。



センダン・ナンキンハゼ・クロガネモチ・タブノキ・シャリンバイ・ヌルデ。それに巻き付く蔓性の植物・グミの類・赤い実を付けているクコ・地面を這うテリハノイバラ。地面を覆い尽くす草の種類も多く、メマツヨイグサ・セイタカアワダチソウ・アシの穂、これらの実を食べ種子をばら蒔いてくれる小鳥たち。食糧となるものの種類が多いと、鳥の種類も多くなるように思いました。また室内に戻り、餌になるものと鳥の関係、隠れ場所、どんな鳥が来ていた・また来るか、などの話がありました。今日の講習でアシ原での楽しみが増えました。植物や鳥や虫がつながっており、和白干潟へ恵みをもたらしている関係にあることを思いながら、保全活動を続けたいと思いました。参加は13名でした。(田中)

イオン黄色いレシートキャンペーン



イオンでは、毎月11日を「イオンデー」として黄色いレシートが発行されます。そのレシートを自分が応援したいボランティア団体の「投函ボックス」に入れると、その団体にレシート金額の1%相当の品物が寄贈されます。和白干潟を守る会は、2008年3月からイオン香椎浜店に登録し、毎月11日には有志数名が守る会のブルゾンを着込んでレジ前に立ち、守る会へのレシート投函をお願いしています。4月11日には、イオン香椎浜店1階の特設会場で、2015年度のキャンペーン贈呈式が行われ、店長から各団体の代表者にギフトカードが渡され、守る会は山本代表がギフトカードの贈呈を受けました。贈呈式の中での団体アピール

では、山本代表が紙芝居で和白干潟の紹介をしました。和白干潟を守る会は、イオン香椎浜店に登録していますが、黄色いレシートは全国どこの店舗が発行したものでも区別はありません。黄色いレシートがあれば、守る会に送っていただくと助かります！(山之内)

守る会問い合わせ窓口 ホームページ：<http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

- ◎入会/ 観察会(申込等)・・・ 山之内 芳晴 Tel.090-8412-2663
- ◎クリーン作戦…………… 田辺 スミ子 Tel.090-1346-0460
- ◎広報/調査/定例会議…………… 山本 廣子 Tel/Fax.092-606-0012
- ◎干潟まつり…………… 今村 恵美子 Tel/Fax.092-942-5282



【編集】

山之内 芳晴・田辺 スミ子・今村 恵美子・高田 将文・山本 廣子

《カット》くすだひろこ ★次号は2016年10月に発行予定★



【編集後記】梅雨が上がると真夏ですね。和白干潟ではカニの子どもたちがたくさん生まれます。生命の息吹を感じながら観察を続けています。この生命の営みがずっとつづきますように！(山本廣子)

お知らせコーナー

第19期「和白干潟の自然観察ガイド講習会 「すばらしき 和白干潟の生きものたち！」

和白干潟の自然観察会で案内するガイドを育成する講習会です。
自然を体験して学習します。参加をお待ちしています。初心者歓迎！

日時：10月2日(日) 14:00～17:00 受付：13:30～

集合：和白干潟を守る会事務所(和白1-14-37、海のきりえ館1階)

講師：逸見 泰久氏(熊本大学沿岸域環境科学研究センター教授)
(海洋生態学 干潟・潮間帯の底生生物)

持ち物：筆記具、スコップ(移植ごて)、飲料、ルーペ

服装：帽子、長そで、長ズボン、長靴 主催：和白干潟を守る会

募集：20名 参加費：300円(保険代、資料代など)

問い合わせ：TEL：090-1346-0460(田辺)



和白干潟のエコチャレンジ “アオサのお掃除大作戦”

日時：8/28(土) 13～15時

9/17(土) 14～16時

10/30(日) 14～16時

集合：和白干潟・海の広場

主催：和白干潟保全のつどい

問い合わせ

TEL090-8412-2663(山之内)

国際ビーチクリーンアップ参加ゴミデータ調査

世界一斉に実施される環境保護キャンペーン。海岸のゴミを調べます。クリーン作戦時に実施します。ぜひご参加ください！

日時：9月24日(土) 15:00～17:00

集合 和白干潟・海の広場

問い合わせ 090-1346-0460(田辺)

和白干潟の生きものやハマボウを見る会

日時：7月31日(日) 13:00～15:00

集合：和白干潟 海の広場 講師：藤井暁彦氏

主催：和白干潟保全のつどい(守る会など4団体)

問い合わせ：TEL090-8412-2663(山之内)

定例スケジュール

定例会議(7/23、8/27、9/24)

毎月第4土曜日10時半～13時 守る会事務所にて開催

以下は参加自由です。仲間が待っています！

クリーン作戦と自然観察(7/23、8/27、9/24)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利 駐車場なし

和白海岸探鳥会(8/14、9/11、10/9)

毎月第2日曜日 9時～12時 JR和白駅前との和白公園集合

主催：日本野鳥の会福岡支部 参加費：一般は300円、中学生以下は無料 駐車場なし



会員募集中！
年会費 個人 2,000円
団体 5,000円
カンパの協力お願い
郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い
和白干潟を守る会のボランティア活動に参加して、新たな自分を見つけませんか？あなたの経験や知識や技術が、きっと活かされますよ！



和白干潟の鳥たち(その75)

イソシギ(チドリ目シギ科 Common Sandpiper) 磯鷗 [全長20cm]

和白干潟では留鳥で一年中見られますが、その数は多くは無いようです。和白干潟の沿岸や河口域、クリークなどでも見られます。通常は1羽でいますが、繁殖期にはつがいで行動します。腹の白と背の茶色がくっきりと分かれていて、浅い水辺を尾を上下に振りながら歩き、けいれんするように翼を動かして低く飛びます。カニやゴカイなどを食べる他のシギ類と違って、水性昆虫の幼虫やトンボやハエなどの昆虫を取って食べます。魚を食べることもあるそうです。和白川や唐原川河口で「ピュピュピピピ・・・」と声を聞いたら、イソシギのことが多いので、すぐ見つかりますよ。(山本 廣子)



(写真撮影：三宅 僚)